

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32512

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05693・19K20894

研究課題名（和文）戦間期南半球からの農産物流通の史的研究－南アフリカのFed-Farmsの事例から

研究課題名（英文）A History of Fruits Trade by South Africa's Fed-Farms: From the perspective of Southern Hemisphere

研究代表者

宗村 敦子（Munemura, Atsuko）

千葉経済大学・経済学部・講師

研究者番号：20828355

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：戦間期のロンドンは、イギリス帝国内外からの多種多様な果実輸出の恩恵を受け、年間を通じて落葉性果実が集められた中心的市場であった。これが実現された背景には、北半球と南半球の季節差を利用し、ヨーロッパ市場にまで積極的に高級果実を販売促進した南アフリカ連邦の生産者の戦略があった。本研究は、1919年に南アとオーストラリア、ニュージーランドの農業組合が協同設立した輸出代理店Fed-Farmsの設立経営と、彼らが果物取引の過程でやりとりした価格情報の電信内容を詳しく論じた。本研究は現地で等級や価格情報が急増し、それが後の現地の等級制度の整備につながったことを、現地新聞の市況記事を使いながら明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本課題では、西ケープ州の農場地域の輸出組合で1920年代末に適用されるに至った等級システムの整備の過程を、海外市場における青果への評価という観点から考察し、情報と植民地産品輸出の相互関係を明らかにした。海底ケーブルという情報媒体に関する研究が豊富にあるなか、電信の商業利用の実態を量的な電信結果の収集という形で論じた研究は本課題独自の観点といえる。この成果により、従来の南ア農業経済史では「政府によって過剰に保護された利益集団」と見なされてきた自治領の農場主集団の輸出活動を、「情報を収集し、それに応じて輸出先の取扱企業を指名する」という非常に重要なマーケティング戦略から評価することができる。

研究成果の概要（英文）：The British empire in 1920s owned a leading center of fruits trade from the Northern and Southern Hemisphere countries, making use of their seasonal gap from harvesting to shipping. Under this system, the union of South Africa used to export their deciduous fruits under a cooperative strategy with other Dominion countries.

This research explored a history of the fruit exporting agent company, The Fed-Farms Southern Hemisphere which agricultural cooperatives and farmers in 3 Dominions joined. Toward a question: how the farmers come to know their repudiation at the distant leading market, I argued that an information network via cabling permeated to the local farming communities, which instinct the branding of deciduous fruits to suite to the palate in Britain and the European continent. Especially the paper "Submarine Cable and African Fruits" crystallized how frequently this agency played a key role to inform each price and quality of shipped fruits.

研究分野：農業経済史

キーワード：農産物流通 海底ケーブル 青果市場 イギリス帝国

## 1. 研究開始当初の背景

戦間期のイギリス帝国の貿易体制は、西洋経済史では自由貿易から保護貿易への転換期に位置づけられ、農産物取引を中心に本国市場と植民地の結びつきが強化されたと言われる。その一つである自治領・南アフリカ連邦（以下では南アとする）では、政府のヨーロッパ系入植者への農業保護が行われたとされてきたが、まさしくその民間人である農場主たちが手がけた青果物の国際取引がどのようにして運営されていたのか、その詳細にまで踏み込む研究は少ない。その一方、ここで課題とする国際青果市場は、大西洋をはさむヨーロッパと北アメリカ市場で 1920 年代にわたって急速に拡大を遂げていった。本研究は北半球での青果市場の発展に伴い、イギリス帝国内の一植民地であった南ア在住の農場主たちが、どのような経緯でこの動向に加わるようになったのか、その南北半球を結ぶ国際的な取引システムの構築経緯を考察した。

このテーマは、申請者が取り組んできた南アの落葉生果物の缶詰加工産業における、原料の分類という第一段階の作業工程に焦点をあてた課題である。青果の品質分類は、1920 年代ではまだイギリス帝国でも統一された指標があるわけでもなく、とくにオランダ系移民の農場主の占める西ケープ農業コミュニティにとって、遠隔市場・ロンドンまで出荷した青果がどのように評価されているのかが不透明であるという問題がひかえていた。こうした状況下で、ロンドン・イギリスの地方市場およびヨーロッパ大陸市場向けに南アの青果を出荷するために、1921 年に輸出組合として「海外農家組合連合（Overseas Farmers Federation）」が組織された。本研究は Fed-Farms に参加した青果関連業者の 1920 年代の動向を、南アの関連希少資料に依拠して考察をおこなった。

## 2. 研究の目的

Fed-Farms は南アの青果輸出を支援する目的で設立された輸出代理店であると同時に、南半球自治領のオーストラリア・ニュージーランドの農業団体もその参加団体に抱える。すなわち Fed-Farms とは、イギリス-南アという垂直的な二国間貿易よりも複雑な構造を持った、フォワードコントラクター（生産者にかわり代理店との遠隔市場での取引をコーディネートする代理店）という顔があった。彼らの南半球市場への「季節的なきりかえ」を伝える重要な手段が、1920 年代には海底ケーブルを使った連絡網である。電信技術はそれまで、外交や戦争などの通信用途として多用されていたが、1920 年代になると商業取引にまで浸透していた。その背景として、1 ワーズあたりの通信費用の低下とともに、赤道縦断的な代理店どうしの人的ネットワークが国際青果市場でも築かれていたことが挙げられる。本課題の焦点は；

① Fed-Farms が行っていた果物の出荷と到着・等級情報のやりとりを南アの荷主がどのような形で受け取っていたのか、

② その電信の内容から、Fed-Farms から先にあるロンドンでの取引対象者との関係がどのようなになっていたのかを、歴史的に追求的に追求することであった。

### 3. 研究の方法

本研究は文書資料収集をもとに、ロンドンで結成された Fed-Farms そのものの組織概要と、南ア西ケープ州の果物農場主たちの農産物流通における協力関係を考察した。主に依拠したのは、南ア国立文書館保存の Fed-Farms の設立経緯を示す会社資料と、南ア国立図書館所蔵の *South African Fruits Growers* (以下では *SAFG*) という現地新聞である。

上記の②を考察するには国立文書館 (ハウテン州) 所蔵の Fed-Farms 資料 (NA Pretoria CD126/1) を利用した。ここにイギリス帝国自治領 3 ヶ国の農産物輸出団体の会合議事録が含まれ、各団体による会計上の拠出内容などを 1921 年から見ることができた。中でも、シカゴの輸出組合団体が Fed-Farms に参加した際、電信での伝達事業の手法を伝授していたことを示す発言内容をひろった。同時に、Fed-Farms が西ケープの農場主からどのようにして信頼を集めたのかという点も考察を加えた。南アの参加者 H.E.V.ピクストン (H.E.V. Pickstone) が Fed-Farms の設立期に、西ケープで「西ケープ果物輸出組合」を結成していた。その史料 Eric Rosenthal Collection (ケープ州・国立図書館所蔵) を使用し、Fed-Farms の結成以後の、H.E.V.ピクストンに集まっていた西ケープ内の地元名士の協力関係を整理した。

また課題の焦点①のために、代理店報告を利用してより数量的なデータ整理を進めた。この作業では、Fed-Farms に出入りしたイギリス帝国内外の様々な大手代理店と担当者の名前があがった。すなわち Fed-Farms が対応した大手代理店は常に以下の 5 社に限定された。

- (A) Gerald Da Costa 社
- (B) J.&H Goodwin 社
- (C) G.E. Hudson 社
- (D) T.J. Pourpart 社
- (E) The United Fruits 社

彼らが執筆した「代理店報告 (Agent Report)」を 1921 年～26 年の 5 年間に限定して閲覧し、*SAFG* に掲載された出荷情報を紐付け、新聞での電信欄を読んだであろう農場主たちがどのような情報を受け取っていたのかを再構築した。

### 4. 研究成果

#### 4-1. 先行研究に与えたインパクト

本課題が研究市場に与えたインパクトは次の 2 点にある。

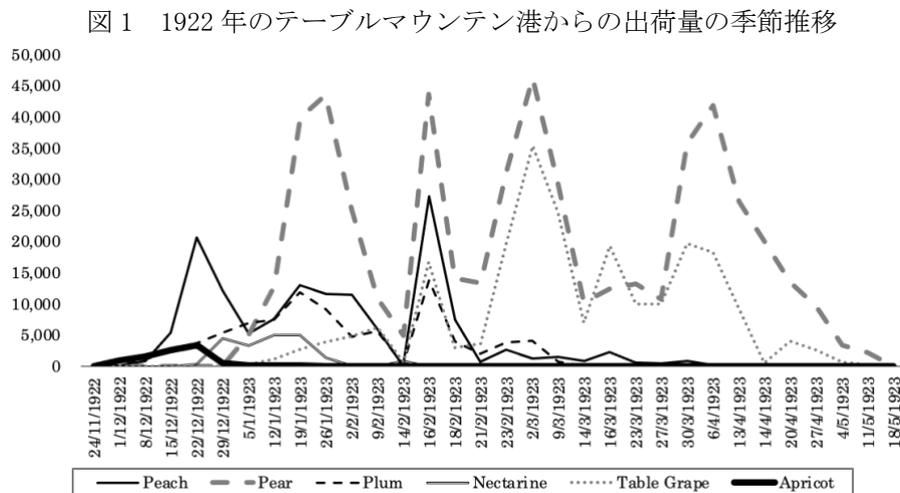
(1) 一つ目は、第一次世界大戦後にヨーロッパ大陸で流行した果物の国際市場の中に、南ア独自の輸出戦略を確認したことである。1920 年代のロンドンで南ア産品は「ゴールド・ランド」というブランドを打ち出していた。農業史家のフェデリコによれば、こうした国際市場において果物輸出組合の活動が活発であったという (G. Federico, *Feeding the World: An Economic History of Agriculture, 1800-2000*, Oxfordshire, 2008, p. 168) が、植民地産品輸出業は現地資料に依拠した先行研究が少ない。Fed-Farms の会社資料の存在は、従来の果物国際取引市場の歴史研究に対して、南半球の季節性を利用した市場戦

略という新機軸を加えた。

(2) 二つ目は、南ア経済史の文脈にける白人農場主ら民間人の農業組合活動を再評価したことである。現在の南ア経済史は、かつての官製コントロールボード下の農業助成政策からのアフリカ人の排除などを批判的に位置づけており、白人農場主たちは保護政策のもと市場戦略では内向的であるとみなされていた。しかし Fed-Farms の関係者には、農務省とは独立的に事業を展開しようとした経緯があり、マーケティングへの関心の高さにも官民では温度差が見られた。そのことから、従来の研究では農業組合周辺での情報の受容という観点が抜け落ちていたことが確認できた。

#### 4-2. 成果の概要

西ケープからの出荷シーズンは毎年 11 月から 5 月の半年間に集中する。SAFG の出港記録では、その積荷量が図 1 のような推移で変動していたことが整理できた。取り扱い代理店はロンドンの市況を電報し、それを集約するのが Fed-Farms、またそれを SAFG の「代理店報告 (Agent Report)」に発行するのが果物輸出組合の役目であった。以下の図からは、単純な出荷量だけではなく、ロンドンに到着したある積荷についての代理店報告数が多ければ、その年の南半球市場の農繁期であることが明らかである。たとえば、1923 年 2 月 16 日の積荷はサウザンプトンでの荷揚げ後ロンドン到着するや否や、4 社の代理店報告が届き、その価格のオファーの競りがなされていたことが読み取れた。



出典：‘Agent Report’ in the SAFG, Vol. 10, January 1923, pp. 27-28; February 1923, pp. 58-60; March 1923, pp. 94-96; April 1923, pp. 130-132; May 1923, pp. 171-172. から宗村作成。

このように各社の打電内容を記事から整理し、特定の船の積み荷についていくらのオファーがロンドンでなされたのかを抜き出して比較した。その作業からは、ピークシーズンになると特定の貨物についての最低価格と最上価格のオファーに大小のばらつきがあったことが可視化された。たとえば、1923 年 2 月 16 日に桃の出荷量が最大になった週では 4 社のうち、Gerald da Costa 社が他社よりも 1cwt (約 50 kg) に対して 1 シリング上乗せした。

また Fed-Farms 自身が書いた代理店報告が紙面に現れたのが、1923 年 3 月 20 日の報告である。その

電報内容では、等級を伝える用語として **Extra Choice** という略語が初めて使用され、カリフォルニア（品種名）の桃へのアメリカのバイヤーから **Fed-Farms** へのオファーと注文量を伝えた。**Extra Choice** とは、以下の品質結果を示している等級用語である。

‘Fancy’(最高級) :

果実は色美にして十分に成熟し、固有の形をもち損傷もなく切除加工しなくとも左右均等な形に整っている、糖度 55%

‘Choice’(上位 2 位級) :

果実は色美にして十分に成熟し、固有の形をもち損傷もなく切除加工さえすれば左右均等な形に整えられる、糖度 40%

‘Standard’ (標準) :

果実の色よく損傷もない、大きさは適度にあり色と成熟度も平均的である 糖度 25%

‘Second’(下位 2 位級)

あまり損傷を受けておらず、切半されたものの大きさ、色、成熟度などが平均的である、糖度 10 %

‘Pie’(最低級) :

衛生上無害だが上の 4 つの等級には属していない

このような表記方法は当時、ロンドン市場とカリフォルニアの代理店間でのみ使用されていたもので、執筆者の **F. Capel** はシカゴの青果商として直前に **Fed-Farms** の理事に加わり、チーフ・マネージャーをつとめていた。1923 年とは、**Fed-Farms** を通じて南ア果物輸出業が遠隔市場での取引方法を吸収し、「より細かく、より短く」伝達できる手法が練られる途上であったのである。

#### 4-3. おわりに

本研究は、これを植民地の果物生産者がロンドン市場での取引情報を集積していた根拠としてとらえているが、助成期間中には彼らが電報を返送していたのかという問題にも取り組んだ。残念ながら本研究の最終年は、Covid-19 の流行を受けて現地史料調査がかなわなかったため、そのことを裏付ける一次史料にたどり着くことはできなかった。しかし、価格情報と等級情報がケープの生産者の間で集積されたことでは、1926 年のケープの果物等級委員会の議事録のなかでも確認でき、果物の出荷状態を改良することにつながったという発言を拾うことができた。今後は情報集積の次の段階である、市場取引における **Fed-Farms** の代理店コーディネーション事業史を検討の俎上にのせることを計画している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 海底ケーブルと果物－南ア産果物輸出産業におけるネットワーキング
3. 学会等名 社会経済史学会第90回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsuko Munemura
2. 発表標題 "Submarine Cable and Fruits" Project: A South African Perspective on the Global History
3. 学会等名 Japan Society for Afrasia Studies, Mini Activity Series
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsuko Munemura
2. 発表標題 Submarine Cable and Fruits Project: A south African Perspective on the Global History
3. 学会等名 Japan Society for Afrasian Studies
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 海底ケーブルと果物：戦間期南アフリカ産果物輸出業におけるネットワーキング
3. 学会等名 社会経済史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 戦間期の労働集約型工業化直前の南アフリカ製造業の市場－南半球Fed-Farmsの農産物先物取引の成立 1921~1923年
3. 学会等名 関西大学経済史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 戦間期南アフリカの缶詰企業とロンドンでの輸出インフラ－南半球Fed-Farms設立をめぐる会議資料（1921年～1923年）を中心に
3. 学会等名 第88回社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 海底ケーブルと果物：戦間期南半球Fed-Farmsによる情報ネットワークの利用構造、1923年
3. 学会等名 アフリカ潜在力会議（開発生業班部会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宗村敦子
2. 発表標題 戦間期アフリカ連邦の果物缶詰の流通とヨーロッパ市場－南半球企業Fed-Farmsを介した先物取引体制の成立
3. 学会等名 社会経済史学会第88回全国学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuko Munemura
2. 発表標題 Remuneration for Her Skill under Job Color Bar: the 1942 Strike in rural Western Cape
3. 学会等名 International Symposium for African Potential and the Future of Humanity (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Atsuko Munemura	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 35
3. 書名 Development and Subsistence in Globalizing Africa: Beyond the Dichotomy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>JSAS Mini Activities April 2021  <a href="https://www.afrasia.org/post/jsas-mini-activities-april-2021">https://www.afrasia.org/post/jsas-mini-activities-april-2021</a>          社会経済史学会全国大会資料、Research Map「公演・口頭発表等」  <a href="https://researchmap.jp/SA-Canning/presentations/10405194">https://researchmap.jp/SA-Canning/presentations/10405194</a>          アフリカ潜在力セミナー 第二回時代調査報告会（3月9日開催）  <a href="https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/fieldrepo/munemura201902">https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/fieldrepo/munemura201902</a></p>
---

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------